

都内中小企業の設備投資、資金繰り等の状況

四半期調査：令和4年第Ⅳ四半期（10～12月）

設備投資：わずかに上昇

資金繰り：わずかに改善

採算状況：改善の動き

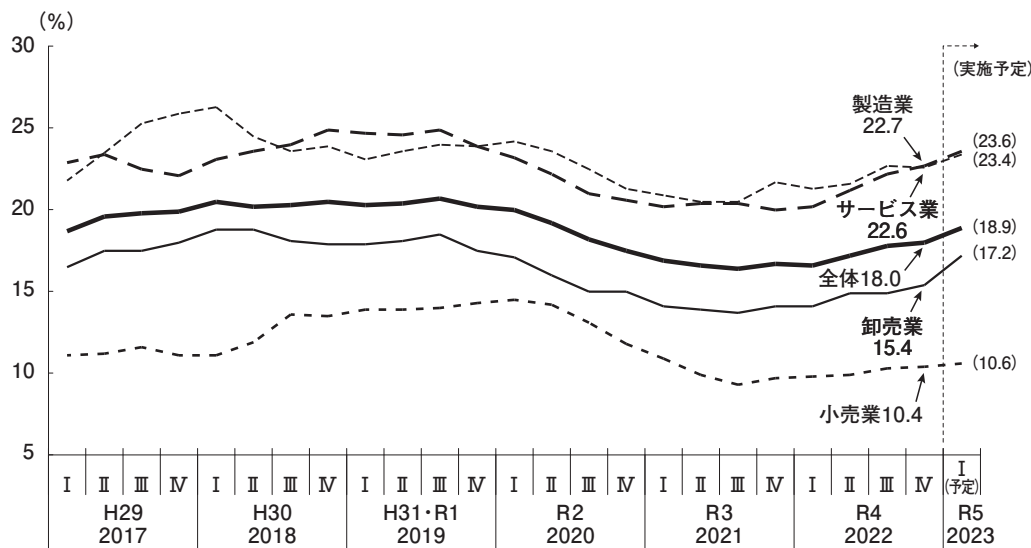
雇用人員：大幅に不足感が強まる

■設備投資■

設備投資の動向を後方4四半期移動平均で見ると、当期（令和4年10～12月）に設備投資を「実施した」割合は全体では18.0%となり、前期（令和4年7～9月）の17.8%からわずかに上昇した。

業種別にみると、設備投資を「実施した」割合は製造業22.7%（前期22.2%）と卸売業15.4%（同14.9%）がともにやや上昇した。小売業10.4%（同10.3%）とサービス業22.6%（同22.7%）はともに横ばいで推移した。

図表1 設備投資の実施割合の推移 —後方4四半期移動平均—



注）来期「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は、後方3四半期実績と来期予定の平均。

来期（令和5年1～3月）の設備投資の「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は全体では18.9%となり、上昇する見通しとなった。

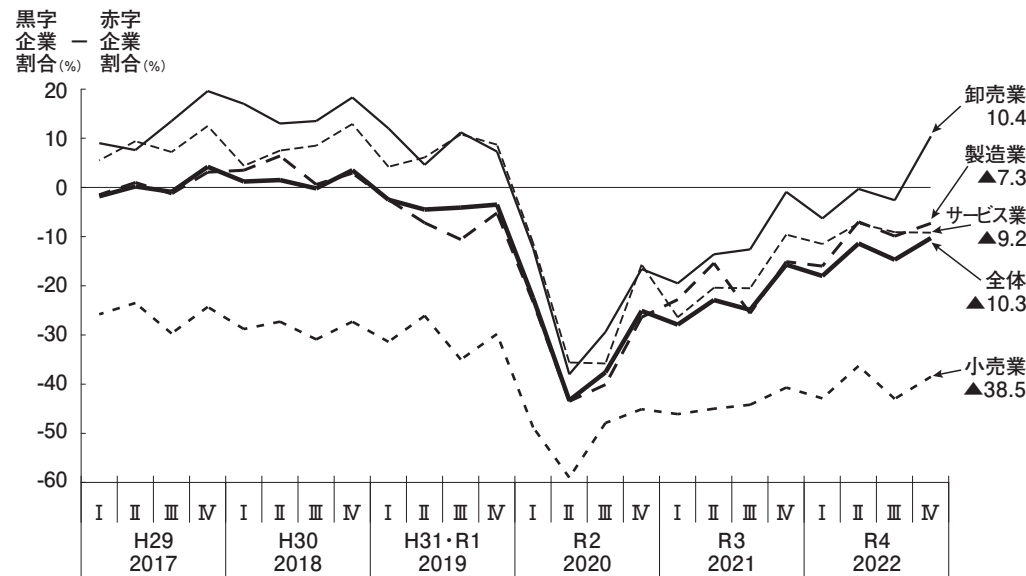
業種別にみると、設備投資の「実施予定」割合は当期と比べて全ての業種で上昇が見込まれる。なかでも卸売業17.2%は大幅に上昇する見通しとなった。

■採算状況■

当期の採算状況を「黒字」とした企業割合－「赤字」とした企業割合で見ると、全体では▲10.3（前期▲14.7）となり、改善の動きとなった。

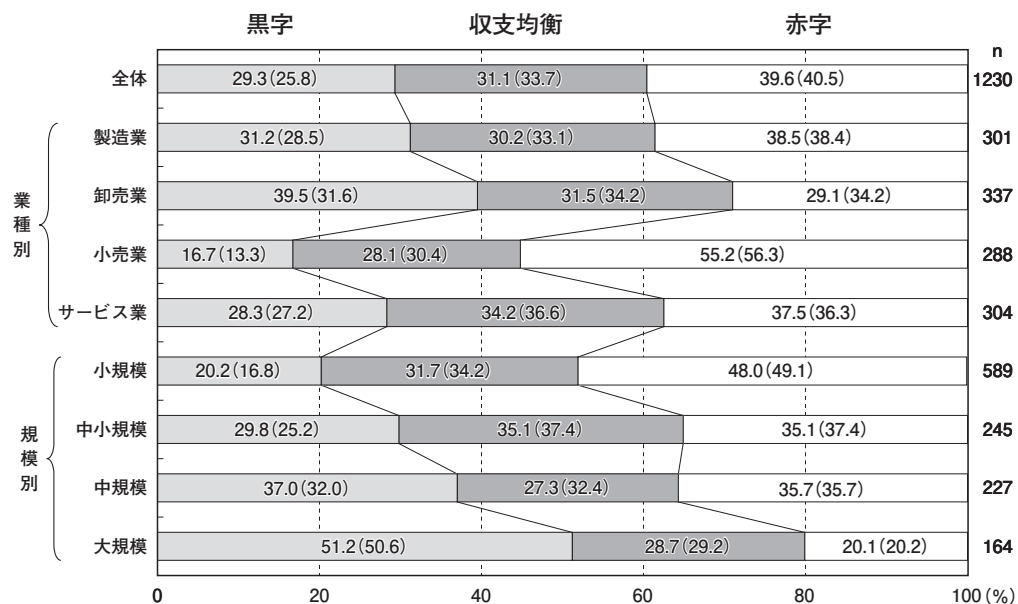
業種別にみると、卸売業10.4（同▲2.6）は13.0ポイント増加し大幅に改善した。小売業▲38.5（同▲43.0）は4.5ポイント増加し改善、製造業▲7.3（同▲9.9）は2.6ポイント増加しやや改善した。サービス業▲9.2（同▲9.1）は横ばいで推移した。

図表2 採算状況の推移



規模別にみると、規模が大きくなるほど黒字の割合が高くなる傾向がみられ、大規模は黒字が51.2%（同50.6%）を占めた。前期と比べて全ての規模で黒字の割合が増加した。

図表3 採算状況（業種別・規模別）



注) 規模別は規模不明を除く。()内は前期(令和4年7~9月)の数値。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

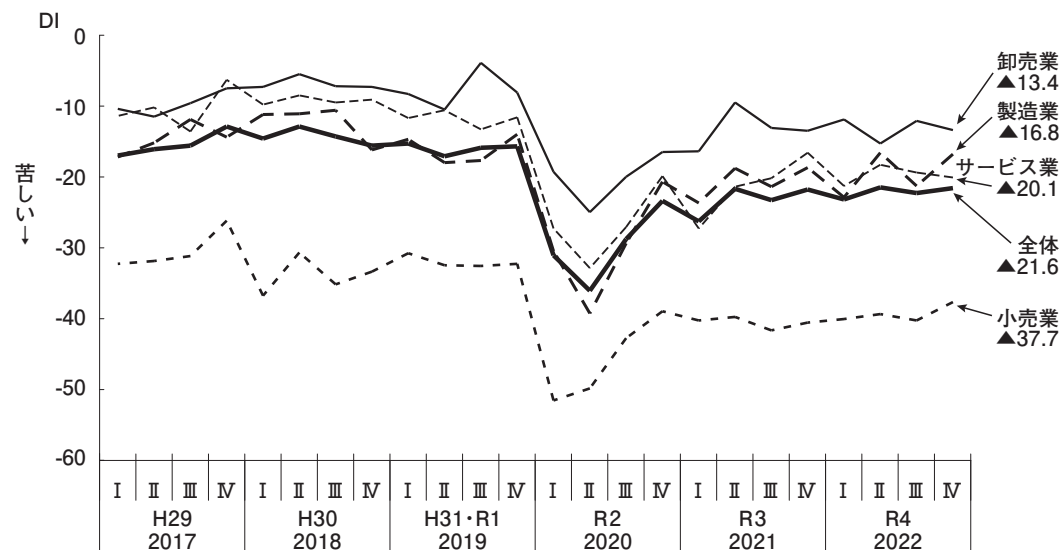
資金繰り

当期の資金繰り状況を資金繰りDI(「楽」-「苦しい」)でみると、全体では▲21.6(前期▲22.3)と0.7ポイント増加しわずかに改善した。

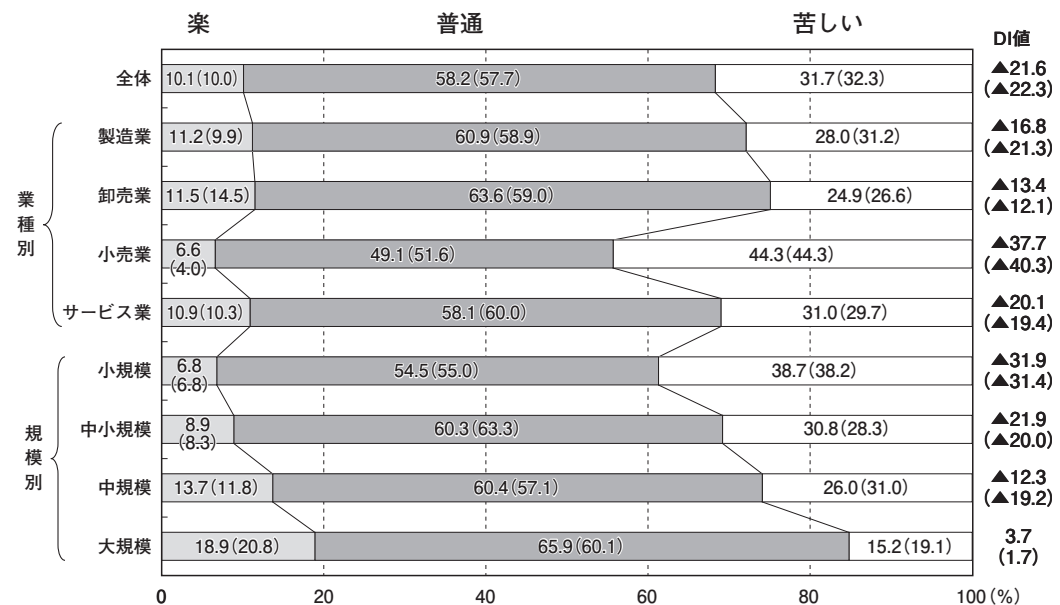
業種別にDI値をみると、製造業▲16.8(同▲21.3)は4.5ポイント増加し改善、小売業▲37.7(同▲40.3)は2.6ポイント増加しやや改善した。一方、卸売業▲13.4(同▲12.1)は1.3ポイント減少しやや悪化、サービス業▲20.1(同▲19.4)は0.7ポイント減少しわずかに悪化した。

規模別にDI値をみると、中規模▲12.3(同▲19.2)は6.9ポイント増加し大幅に改善、大規模3.7(同1.7)は2.0ポイント増加しやや改善した。

図表4 資金繰りDIの推移



図表5 資金繰り状況（業種別・規模別）



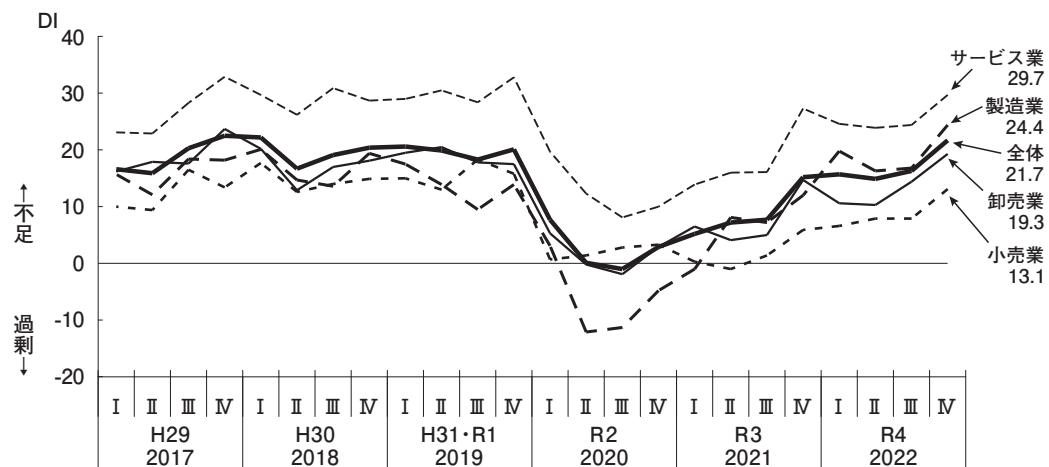
注) 規模別は規模不明を除く。()内は前期(令和4年7~9月)の数値。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

■雇用人員■

当期の雇用状況を雇用人員DI(「不足」-「過剰」)で見ると、全体では21.7(前期16.3)となり、大幅に不足感が強まった。

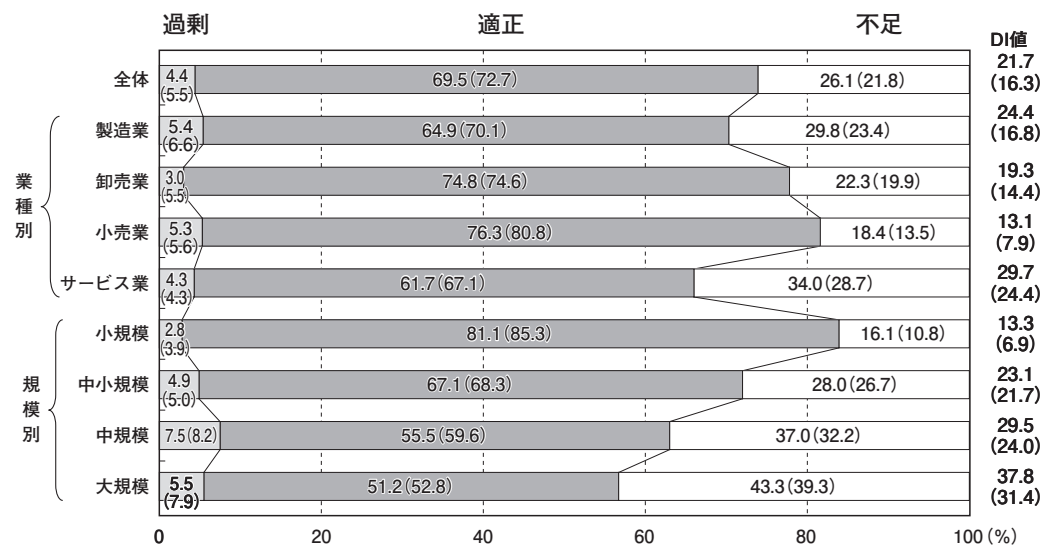
業種別にDI値をみると、製造業24.4(同16.8)は7.6ポイント増加し大幅に上昇した。

図表6 雇用人員DIの推移



規模別にDI値をみると、前期と比べて全ての規模で不足感が強まった。なかでも小規模13.3(同6.9)と大規模37.8(同31.4)はともに6.4ポイント増加した。

図表7 雇用人員の状況 (業種別・規模別)



注) 規模別は規模不明を除く。()内は前期(令和4年7~9月)の数値。
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。